

学生のキャリア形成支援活動（4類型） — 特徴の比較 —

以下の表は、学生のキャリア形成支援活動（4類型）の主な特徴を一覧表にまとめたものです。
各タイプの特徴に関するより詳しい内容については、産学協議会2021年度報告書「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」の33～45ページをご覧ください。

| | 類型 | | | |
|--------------------|---|---|---|--|
| | タイプ1： オープン・カンパニー | タイプ2： キャリア教育 | タイプ3： 汎用的能力・専門活用型インターンシップ | タイプ4（試行）： 高度専門型インターンシップ |
| ①目的 | 個社や業界に関する情報提供・PR | 働くことへの理解を深めるための教育 | 就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、企業にとっては学生の評価材料の取得 | 就業体験を通じて、学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の評価材料の取得 |
| ②代表的ケース(主に想定されるもの) | 企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会 | <ul style="list-style-type: none"> ●大学等が主導する授業・産学協働プログラム（正課・正課外を問わない） ●企業がCSRとして実施するプログラム | 企業単独、大学等が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラム | <ul style="list-style-type: none"> ●ジョブ型研究インターンシップ（博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中） ●高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中) |
| ③就業体験 | なし | 任意 | <p style="text-align: center;">必須</p> <p>★(a) 就業体験要件 学生の参加期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる (テレワークが常態化している場合は、テレワークも「職場」)</p> <p>★(b) 指導要件 就業体験では、職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後、学生に対しフィードバックを行う</p> | 必須 |
| ④参加期間(所要日数) | 超短期(単日) | 授業・プログラムによって異なる | <p>★(c) 実施期間要件</p> <p>(i) 汎用的能力活用型は短期(5日間以上)</p> <p>(ii) 専門活用型は長期(2週間以上)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●ジョブ型研究インターンシップ：長期(2カ月以上) ●高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)：検討中 |
| ⑤実施時期 | 時間帯やオンラインの活用等、学業両立に配慮し、学士・修士・博士課程の全期間(年次不問) | 学士・修士・博士課程の全期間(年次不問)。但し、企業主催の場合は、時間帯やオンラインの活用等、学業両立に配慮 | <p>★(d) 実施時期要件</p> <p>学業との両立の観点から、「学部3年・4年ないしは修士1年・2年の長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み)但し、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない</p> | — |
| ⑥取得した学生情報の採用活動への活用 | 不可 | 不可 | 採用活動開始以降に限り、可 | 採用活動開始以降に限り、可 |

★(e) 情報開示要件：タイプ3の実施にあたり、募集要項等に、以下の項目に関する情報を記載し、ホームページ等で公表してください。

- | | | | |
|------------------------------|--------------------------|---|------------------------------|
| ①プログラムの趣旨(目的)、 | ③就業体験の内容(受入れ職場に関する情報を含む) | ⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨(活用内容の記載は任意) | ⑧インターンシップ実施に係る実績概要(過去2～3年程度) |
| ②実施時期・期間、場所、募集人数、選抜方法、無給/有給等 | ④就業体験を行う際に必要な(求められる)能力 | ⑦当該年度のインターンシップ実施計画(時期・回数・規模等) | ⑨採用選考活動等の実績概要※企業による公表のみ |

丁寧な
情報発信
が大事!

